地域とつながる高校を目指して ～甲佐町公営塾「あゆみ学舎」～

甲佐高生が「だがし屋さん」で地域交流

甲佐高校の魅力づくりの一環として、町が平成29年11月に同校に設置した甲佐町公営塾「あゆみ学舎」。１人ひとりの希望する進路や学習の進捗に合わせた個別指導や社会で必要な能力を身につける授業などを通して同校の活性化に取り組んでいます。

２月19日（金）同塾が甲佐高生と企画運営する「だがし屋さん」が開催されました。

4

2

3

1

1・4/「ニッポニア甲佐」のエントランスで、縁側に並べられた色とりどりの駄菓子を選ぶ子どもたち　2/「だがし屋さん」を企画運営した甲佐町公営塾「あゆみ学舎」の皆さんと甲佐高校の生徒たち　3/子どもたちがお小遣いと相談しながら手に取った駄菓子

■甲佐高生が地域との交流を深める

２月19日（金）古民家ホテル「ニッポニア 甲佐 疏水の郷」（岩下）で甲佐高校の生徒たちが駄菓子の販売を通した地域交流を行いました。

同イベントは、甲佐高校（本山幸広校長）の魅力づくりの一環として町が設置した甲佐町公営塾「あゆみ学舎」が、同校生徒と地域とのつながりを深める取り組みとして企画し、「地域とゆるやかにつながる縁側」をコンセプトとする「ニッポニア甲佐」が協力。

あゆみ学舎が生徒たちと話し合い、子どもたちでも気軽に集える場所として、現在の商店街では姿を消した「だがし屋さん」を開くことに。

会場を訪れた地域住民は、かつて地域のつどいの場としてにぎわった駄菓子屋の雰囲気を楽しみました。

■地域社会の中で学びを

参加した生徒たちは、商品の選択や設営、接客、販売などを行いながら、対話を通した学びを体験。コロナ禍で地域社会の中での学習が難しくなる中、魅力ある学校づくりの試行錯誤が続いています。

同校の「だがし屋さん」は、今後も不定期で開催され、次回は3月中旬の開催を予定しています。

地域とのつながりを学びに活かす

甲佐町公営塾「あゆみ学舎」
越名 智美さん

地域社会とのつながりが希薄化する中、住民の皆さんと交流する機会を積極的に持つことで、甲佐高校をもっと身近に感じてもらいたいと考えています。

地域に根差した高校として、甲佐のヒトやモノ、歴史などの資源を活用しながら、生徒たちと一緒に学んでいければうれしいです。

●お問い合わせ先
甲佐町公営塾「あゆみ学舎」　090-9581-0064

◀役目を終えた白旗仮設団地のみんなの家を利活用した府領区の新たな公民館

被災者の憩いの場を新たな地域づくりの拠点に

熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト

■熊本地震被災者の憩いの場を後世に遺す

県ではこれまで、くまもとアートポリス事業の一環として、被災者が集い、新しい生活を回復するための憩いの場として「みんなの家」プロジェクトに取り組んできました。熊本地震においても応急仮設住宅団地内の「みんなの家」を集会施設などとして整備しています。

現在、熊本地震からの住まいの再建が進む中、応急仮設住宅団地の閉鎖に伴って、この「みんなの家」は当初の役割を終えることとなります。

県では、被災者の憩いの場として大切に活用されてきた「みんなの家」を後世に遺すとともに、新たなコミュニティ形成の場や地域づくりの拠点となるよう、移築等による利活用を進めています。

■被災した公民館に変わるコミュニティ活動の拠点

本町でも、県が進める同プロジェクトの一環として、町内の仮設団地で活用された「みんなの家」の利活用が進んでおり、昨年末には、熊本地震で被災した府領区の新たな公民館として生まれ変わりました。

地区住民の意見を取り入れながら設計されたこの公民館は、2棟の「みんなの家」をT字型に合築することで、80名程度が一堂に会することができる大広間や小人数で利用できる小上がりの畳の間などを備えています。カラフルな塗装で彩られた梁や天井が特徴的な明るい空間となっています。

また、北早川区にも「みんなの家」を利活用した公民館が熊本地震から5年となるのを前に完成し、地域づくりの拠点として利用されることになっています。

▼お問い合わせ先
・県建築課アートポリス・UD班
TEL 096-333-2537
・町社会教育課
TEL 096-234-2447